

(質疑等の要旨)

■市民アンケートについて

- 委員 公園の利用ルールを地域住民で考え運用する場へ参加したい市民が 3 割(7 p 問 9) いることを高いと捉えた。市民主体で利用の在り方を考えられる可能性が高い。
- 委員 公的な場で緑化・美化に取り組みたい市民が 3 割(2p 問 20)いることは高い。年代別の結果を知りたい。
- 事務局 今後実施する子ども向けのアンケート結果も含め、年度末の分科会で報告予定だ。
- 委員 市の緑の満足度(2p 問 20)は前回調査と比較し向上したが、100pt が満点の 51pt は平均点であり、まだ低い。「普通」の回答者 57.2%は無関心層といえる。公園のルールづくりに参加したい人が一定層いるので、市民のやりたい事をどう吸い上げ、間口を広げるかが課題だ。
- 委員 やってみたい取組(9p 問 22)1 位が農業とのことだが、地区の子ども会で行う木登り体験や農業体験への反響が大きく、親も体験を望んでいると感じている。尼崎にも農業というキーワードがある。
- 委員 農業は土づくりから始めると収穫までに長期間要するが、市民農園は 5 年の期限が設けられていることが課題。アンケートの設問では農業と一括りになっているが、本格的な農業体験と体験的な場を、分けて考える必要がある。
- 委員 日本初の分区園のある西武庫公園等、体験の場を持つ公園が市内にある。公園で体験の場づくりに取り組み、次の段階で農地で農園づくりに関わる市民を増やす等、段階を追って計画に示したら良い。
- 事務局 底辺を広げていくことが大切と考え農業や緑化等、様々なメニュー作りを進めたい。
- 委員 西武庫公園分区園では認知症予防の一環で農業を体験する取組もあり、ウェルビーイング×農業×公園の取組みなので計画に触れて頂きたい。
- 委員 農業は虫を駆除するので、虫を殺さない、虫専用の農地をつくるという考え方もある。
- 委員 虫のついた野菜は市場に出しても選ばれない。キャベツも日が当たる青い部分は虫がつくので捨て白いキャベツが店頭に並ぶ。
- 委員 虫を殺さない農地は虫が集まるので、営農する農地と場所を話す等の配慮が必要。農業公園等で、様々な農業の課題を伝えることが重要だ。
- 委員 農業体験のきっかけの機能が公園にあることを骨子案の取組テーマ①公園の利用促進、②時代潮流や市民ニーズに合った公園の機能分担の項に入れ示せばよい。
- 委員 地域公園の利用ルール運用(7 p 問 9)について市民が公園ルールを考える事が可能なのか。
- 事務局 既に市内の公園で利用者が公園ルールをつくる取組も始めている。市内の公園ルールは一律に決められているが、地域や利用者が許す範囲であれば自由に使える場なので、地域でつくったルールの運営等、地域で責任をもって頂きたいと考えている。
- 委員 情報発信(2p 問 24)の満足度のみ 50pt を下回った具体的な理由が分かれば教えて欲しい。

事務局 不満が特に多いわけではなく、他の満足度と比べると高くないという結果だ。緑化普及の情報発信は行ってきたがそれ以外は不十分だったと考えており、利用促進のために様々な情報発信の必要性を感じている。

■議事「尼崎市みどりの基本計画編 骨子案」

委員 市民・市民団体と区分して書いているのはどうしてか。役割分担があるのか。

事務局 個人参加と団体参加があるのであえて分けている。

委員 基本理念「みんなで創り、守り、つなごうあまがさきのみどり」だが、「まち」がこうなる…、みどりから素敵な尼崎のまちになるという言葉が良い。

委員 河川や街路樹は国や県、近隣自治体との協力が必要だがどう考えているか。

事務局 どこまで書くかは整理する必要がある。同時改定の市環境基本計画も反映したい。国の河川は、流域自治体と国との会議があり、その流れをくみ取る必要がある。

委員 3. みどりを取り巻く背景(2p)で法改正など、国への計画の対応が書かれた3段落目は、市民目線では関心が薄い箇所。生活との関係を示す為、青枠で示す社会情勢と時代潮流の変化で掲げたDXやグリーンインフラ等の項目の内容を強調する。

委員 第2章地域らしいみどりのまちづくり(27p)のボリューム感と施策体系とのバランスはどうするのか。施策体系は必要なことを網羅しているが、知りたい情報がどこかわかりにくい。複数施策をまたぐ場合、計画でどう取り上げるか見えにくい。

事務局 地域らしい緑のまちづくりは、俯瞰的なイメージで取組を図示し、複数分かれる場合もそれが見えるようにしたい。基本方針と施策体系(5.6p)は、興味があることへアクセスできる目次として使えるようにしたい。各ページの右端にキーワードを載せる等、知りたい情報へアクセスできるようにしたい。

事務局 取組同士の関係がわかりやすく示せるよう体系図が固まったら表現を工夫したい。

委員 魅力的な公園づくりに関係するところだが、21世紀の森中央緑地等、臨海部への公園アクセス、利便性の向上は課題であり触れて頂きたい。

事務局 都市計画の課題は都市計画マスタープランとの整合性を図り対応したい。

委員 公園利用者で、車いす利用者や足の不自由な高齢者の利用者も多い。インクルーシブについて書く必要がある。

事務局 「3 誰もが利用しやすい公園づくり(8p)」に入れる予定で情報収集、検討している。

委員 全体的に目標が薄い。まちの目標像を示すため序章の参考イメージ1、本計画の対象となる『みどり』の概念(1p)の図の拡充を考えたらよい。インクルーシブやSDGsの趣旨を踏まえ、様々な多様性を認めみんなが笑って使える公園であることを目標にし、実現のため、企業、NPO、市民、行政、様々な主体が関わるといった内容が良い。推進体系も参加型の計画のため冒頭の1、2ページに書いたらよい。1、2ページが大切だ。

事務局 白紙にしてある表紙の裏は、尼崎市全体のイラストに吹出しで緑の説明を加える等、みどりの基本計画の内容がわかるイメージ図をプロに依頼し作成したい。

- 委員 緑を次世代に残すという内容に子どもの事をもっといれて欲しい。みんなという言葉に含むのかもしれないが子どもの内容が少ない。キーワードとして入れて欲しい。
- 委員 気候変動や資源循環等の課題も入れた方が良い。みどりの将来像(3p)という言葉は、緑は大事なので守ろうと見えるので、みどりが何に大事なのか示した方が良い。
- 委員 水についてだが、尼崎は運河が多く使い方によっては豊かな環境になりうる。
- 委員 表紙や図等、プロのデザイナーへ発注はするのか。普及の為にデザインの力は重要。
- 事務局 来年度にデザインも含めた発注を予定しているが、予算次第だ。
- 委員 取り組みが無いので緑の機能がつながっていない場所を、1章の前段階で取組をよびかけ参加を促す図を入れても良いのではないかと。2章地域らしいみどりのまちづくりの図は、道路名称を書くより、この先につながる近隣自治体の緑につながる等、全体の緑の関係性が見えるようにすることで、つなげなくてはならない理由がわかる。
- 委員 基本方針と施策体系(5、6p)は必要なことが網羅しているが、1-2 街路樹のあり方は不十分。手間を軽減し良い街路樹を創出することや、温暖化への対策、微気象の効果等、景観面だけではなく環境面も含めてもっと分解し内容を書いた方が良い。県道や国道の管理に当たる県、国との協議の際にも、市の街路樹方針の根拠となる。
- 事務局 街路樹は、みどりの基本計画で方向性を示すが、別途計画の作成を検討している。
- 委員 樹種による大気汚染効果なども踏まえて欲しい。
- 委員 煤塵の軽減等、健康への必要性も街路樹の効果に含めたらよい。

以上